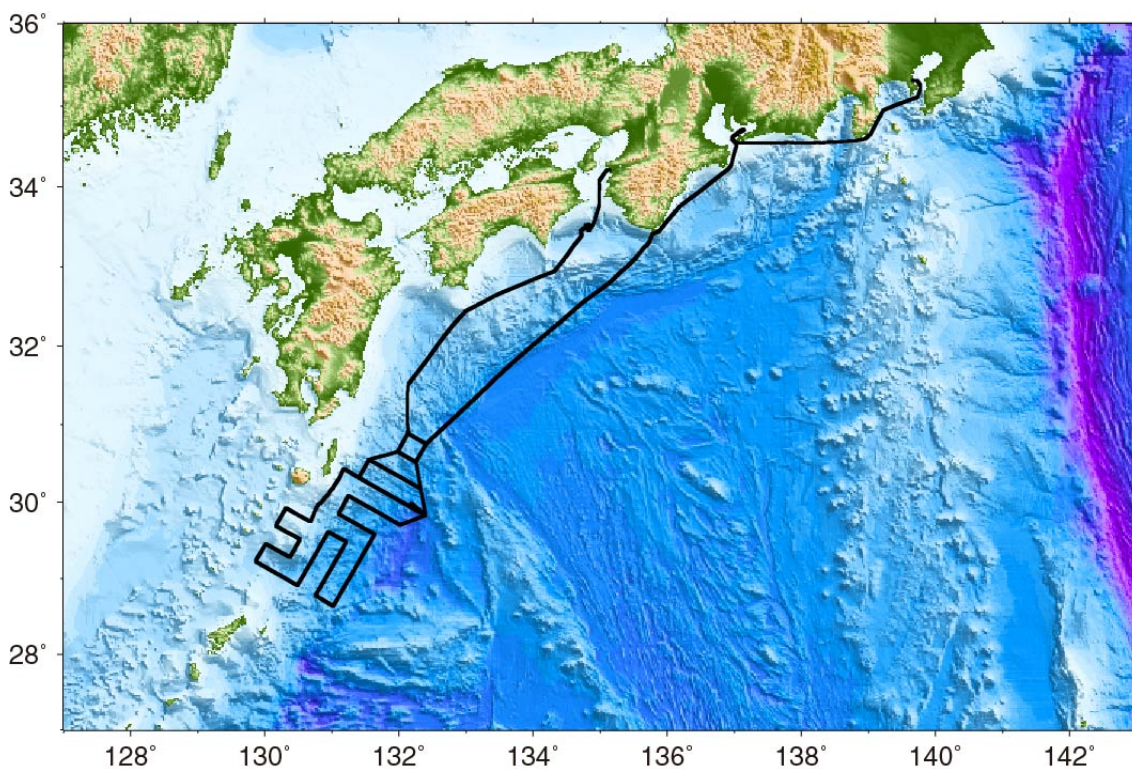


提出日：2016年 9月 30日

クルーズサマリー

1. 航海情報

- (1) 航海番号 KR16-10
- (2) 船舶名 「かいいい」
- (3) 航海名称 平成28年度 所内利用 受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：
巨大地震発生域調査観測研究」
- (4) 首席研究者 高橋 努[海洋研究開発機構]
- (5) 課題代表研究者 小平 秀一[海洋研究開発機構]
- (6) 研究課題名 受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト：
巨大地震発生域調査観測研究」 3. OBS 自然地震観測
- (7) 航海期間
平成28年9月7日(水)～平成28年9月14日(水)までの8日間
- (8) 出港地～寄港地～帰港地
[JAMSTEC 横須賀]～[和歌山]
- (9) 調査海域名
九州南東、南西諸島海域
- (10) 船舶の航跡図



2. 実施内容

(1) 調査概要

南西諸島では地震観測点が島嶼部に限られているため、定常的な地震活動や地下構造について十分には解明されていない。受託研究「南海トラフ広域地震防災研究プロジェクト」内の「巨大地震発生域調査観測研究」調査観測分野では、九州から南西諸島海域にかけての沈み込み帯の構造と地震発生の構造的な背景を明らかにすることを目的として、自然地震観測や制御震源による構造探査などを実施している。2015年度は南海トラフの巨大地震発生域に隣接する九州南東・南西諸島北部において、南西諸島北部の地殻構造およびプレート形状イメージを得ることを目的とした大規模構造調査を実施し、沈み込むフィリピン海プレートの形状や陸側プレート内の断層分布の解明に資するデータを取得した。2016年度は、南西諸島北部における定常的な地震活動、スロー地震現象の解明を目的とした自然地震観測を実施し、本航海では海底地震計の設置を行った。設置した海底地震計はKR16-18航海で回収予定である。

(2) 実施項目

(a) 海底地震計の設置

本調査では、種子島東方沖およびトカラ列島東方沖に東京測振製の短周期海底地震計43台を設置した。このうち13台にはスロー地震現象に伴う海底地殻変動を観測するための小型水圧口ガー(RBR社製 TDR2050, TD10000)を搭載した。

(b) 海底地形・重力・地磁気観測

調査中はマルチビーム音響測深器による海底地形データや重力・地磁気データを取得した。